

I 実践

1 本校人権教育の目標

(1) 経営方針

- ア 人権に対する理解と認識を高め、各教科、道徳、特別活動など学校生活全体の中で、人間的な触れ合いを通しての平等や人権尊重の精神の育成を目指す。
- イ 地域、学校及び生徒の実態を把握して人間関係の改善を図り、言語環境を整えることで意欲的に生活や学習ができる集団づくりを目指す。
- ウ 互いに信頼し、思いやりの心を持って生活できる集団づくりを目指す。

(2) 施策

- ア 全職員の共通理解の下に指導体制を確立する。
- イ 生徒の実態や悩みなどを日記指導・教育相談や日々の観察等を通して的確に把握し、個に応じた指導をする。
- ウ 職場体験・文化祭など各種行事や活動を通して感謝の心や思いやりの心を育てる。
- エ 「人権教育指導資料」を活用した授業作りを行う。
- オ 授業参観、保護者会、家庭訪問、学年通信等を通して、保護者への理解・啓発を促す。

2 実践内容

(1) 主題名 雨の日の届け物 2-(3) 友情、信頼

(2) 主題設定の理由

ア ねらいとする価値について

内容項目〈2-(3)〉は、「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」ことをねらいにしている。中学生の時期は、親や教師に多くのことをゆだねていた時期から脱し、独立しようとする発達段階にあるため、同世代によき理解者を求めたり、互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。しかし、心を許し合うと言って自己中心的で、相手に要求することの多い関係になりがちである。

そこで、相手との望ましい人間関係を育て、信頼と敬愛に支えられた友達関係を築くためには相手の内面に目を向け自分を向上させていくことが大切であることを自覚するとともに、共に語り、悩み、共感し、そして励まし合い、高め合うことのできる友情を育もうとする心を育てたいという思いから、本主題を設定した。

イ 生徒の実態について(在籍 男子16名 女子14名 計30名)

〈アンケート結果〉 平成23年10月7日実施 回答30名

- 1 あなたは友だちを大切だと思いますか。
・はい(30) ・いいえ(0) ・どちらとも言えない(0)
- 2 友だちに上手く気持ちを伝えられないと感じたことはありますか。
・はい(8) ・いいえ(2) ・どちらとも言えない(20)
- 3 それはどんな時ですか。[主な回答]
・一方的に話をされたとき ・けんかしたとき ・イライラしているとき
・自分が気持ちと真逆のことを言ってしまったとき
・真剣な言葉を流されてしまったとき など

ウ 資料について 資料名「雨の日の届け物」 出典[「自分を見つめる」廣済堂あかつき]

この資料は、2人の女子中学生の日常の出来事から、友情のもどかしさや尊さを感じられる内容になっている。「私」と「ひとみ」はお互いに素直に接することができず、もどかしい気持ちを抱えて生活しているが、「私」が思いきって心の中に秘めていた不満を打ち明けることで、2人の関係が良くなっていく。生徒が自らの生活と照らし合わせながら、友だちとの関係を築いていく上で、感情のすれ違いがある場合に、時としてはっきりと自分の気持ちを打ち明けることも必要なことに気づくことができる。

(3) 本時のねらい

相手の立場や気持ちを考えつつ、自分の考えや思いを素直に伝えることで、互いに信頼し合い、友情をより深めようとする心を育てる。

(4) 展開

◎「表現力」を高めるための手立て・工夫

主な活動と発問	予想される生徒の反応	個への手立て
1 友だちとの接し方についてアンケートの結果をもとに考える。 ○友だちとのかかわり方で気をつけたいことは何でしょう。	・友だちは大切だよ。 ・自分が言われていやなことは言っちゃだめだよな。	・友だちを大切にしたいという実態を確認し、よりよいかかわり方を考えてみるよう助言する。
2 資料をもとに友だちの気持ちを思いやる大切さを考える。 ○「すずらんの花の花言葉は何だと思いますか。」 ○「図書館で勉強を教えてくれな いひとみを私はどう思いました か。」 ◎「心の中のもやもやをぶつけた ときの「私」はどんな気持ちだ ったでしょうか。自分だったら、 どのように伝えますか。」	・花言葉って何だろう。 ・「優しさ」じゃないかな。 ・すずらんって花が鈴みたいにいっぱいついてる花だよな。 ・自分から教えるって言ったくせに、意地悪だな。 ・どうして教えてくれないのかな。 ・平然としていて、この前のことは気にしていないのかな。 ・本当は少し嬉しいだろうな。 ・許せない気持ちだろうな。	・花は人の心を癒し、自分の気持ちを伝える手段になることを伝える。意見が出ない時には、三つの選択肢を提示して、想像できるように。 (永遠の愛, 幸福の再来, 悪魔の再来) ・じっくりと情感を込めて読む。 ・「私」の期待していた気持ちと裏切られた気持ちとの2つがあることを確認する。 ◎自分だったらどう伝えるのか、できるだけ多く指名して、自他の意見を比較させる。
3 友だちとのよりよいかかわり方を考える。 (1)文句を言いたくなった時の場面をグループで実演する。 (2)これからの生活で実践したいことをワークシートにまとめる。	・私はとても悲しいよ。 ・私はあなたといてとても楽しい。 ・少し恥ずかしいな。 ・普段の生活から試してみたいな。	◎「私メッセージ」と「あなたメッセージ」があることを伝え、2通りの方法で実演するように助言する。 ・実生活に近い場面設定をする。 【評】相手の気持ちを考え、よりよいかかわり方を普段から意識しようとしているか。(ワークシート)
4 教師の話を聞く	・たまには、すれ違ってしまいうこともあるよな。 ・今日知った関わり方でこれからもみんなといい関係でいたいな。	・ささいなことで、友情がゆらいでも、適切な関わり方をすることで、絆は一層強まり、すずらんの花言葉のように幸福が再来することを伝える。

3 実践の成果

文化祭を控え、学級という小集団で望ましい人間関係を築き、団結を深めていく時期に道德の時間で取り上げた内容である。この実践を通して、友だちを大切にする気持ちを意識させるとともに、相手の立場や気持ちを考えつつ、継続的に友だち関係に対する意識をもたせることができた。

II 今後の課題

人それぞれに個性や立場の違いがあることを理解し、それらを尊重し、互いに信頼し合い、思いやりの心をもって生活できる集団形成の態度を育てる場を多く設定したい。それらをまとめ、振り返り学習ができるような人権コーナーの充実に努めたい。